

福大病院ニュース

ボランティア活動について



ボランティア推進室長
看護師 本多 里美

福岡大学病院におけるボランティア活動は、平成11年にはじまり、今年で10年の活動の節目を迎えました。この間、多くのボランティアの方々に支えていただき、病院内で患者さんに直接お世話をする活動や、コンサート、マジックショーなどイベントの開催、福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡等をはじめとする各訪問団の受け入れなどの活動を行ってきました。

病院ボランティアには毎年約30名の方々の登録があり、院内で様々な活動をしています。活動の内容も徐々に広がり、外来患者さんの案内、車椅子利用者の援助、移動図書、入院患者さんへの朗読、折り紙講習、将棋のお手合わせなど、15種を超える分野で活動を行っています。また、毎年開かれる冬のミニコンサートや、小児科病棟で行われる季節の行事などの運営にも携わっています。私は、ボランティアを志願された方に事前にお会いして、具体的に活動内容などを調整させていただくのですが、お話をしていく中で、「人のために役立つことをしたい」と、皆さんの前向きで、あたたかい心が伝わってきます。また、活動のなかでは親身に患者さんにかかわっていただき、患者さんからも好評でとても喜ばれています。ボランティアは黄色のサロンエプロンをつけ活動していますので、外来の待合時間などに気軽に声をかけてください。

病院ボランティアについて多くの方に知っていただくために、平成17年から、福岡大学病院ではボランティア養成講座を開催し、ボランティアを行ううえでの専門的講義、ボランティアとしてすでに活動している方からの概要説明、車椅子移動介助の実技講習などを行っています。今までに53名の受講があり、受講者のなかから新たなボランティアも誕生しています。また、ボランティアの方々と交流会を開催し、患者さんやボランティアの方々の視点からの貴重なご意見をいただき、様々な示唆を得ています。

平成23年1月には、現在建築中の新診療棟が開設となり、新しく充実した施設に期待が膨らみます。そして、今以上に多くのボランティアの方々のお力を借り、活動の場を広げていかななくてはと考えています。福岡大学病院では随時ボランティアを募集し歓迎しています。ボランティアに関心がある方、活動してみたいと思われる方は、ご自分の時間の許す範囲で、無理なくボランティア参加をされてみてはいかがでしょうか。私たち職員とともにボランティアの輪を広げていただく方を心よりお待ちしております。



今日もリハビリ頑張りましょう!



足もとに気を付けて下さいね。



受付では私たちがお手伝いします。



※詳しくは福岡大学病院ホームページをご覧ください。

福岡大学病院 〒814-0180
福岡市城南区七隈七丁目45-1
TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/



新診療棟建設中「平成23年1月オープン予定」

工事風景 平成21年6月現在



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が認識すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことをお願いします。

《患者さんの権利》

1. 受療権
患者さんには常に人間としての尊厳と差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 選択権
患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。
3. 自己決定権
患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
4. 知る権利
患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. プライバシー保護権
患者さんは医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。

《患者さんの義務》

1. 情報提供義務
患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
2. 状況確認義務
患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け、理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
3. 診療協力義務
全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
4. 医療費支払い義務
適切な医療を維持していただくために、医療費を滞滞なくお支払いいただくことが必要です。

内分泌・糖尿病内科の紹介



診療部長
医師 柳瀬 敏彦

当科は平成21年4月から新設された講座として誕生し、本年度4月に九州大学より私、柳瀬が診療部長として着任いたしました。それに伴い、病院の診療科としても4月からリニューアルし、スタートいたしました。当科は看板どおり、内分泌(ホルモン)の病気や糖尿病を中心に診療する内科です。ホルモンの病気は、あるホルモンがたくさん出過ぎたり、あるいは少ししか出ないために、身体に様々な不都合な症状が起こる病気です。主に、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺(睾丸、卵巣)、膵臓などホルモンを産生する様々な臓器で起こる病気です。ホルモンが出過ぎる原因のほとんどは腫瘍による過剰なホルモン産生によるものですが、腫瘍のほとんどは良性で、早く見つけて手術で取り除いてあげれば、よくなっていくことがほとんどです。腫瘍を完全に取り除けない場合や、手術ができない場合には放射線療法やお薬によってホルモンの出過ぎを抑える治療をします。各外科専門医や放射線専門医の先生方と連携の上、術前診断や術後の管理を行っています。ホルモンの出方が足りない患者さんの場合には適切な量のホルモンを補充してあげることが治療となります。特に、ホルモンの病気の中でも多い甲状腺疾患に対しては毎週、火曜、金曜の午後に甲状腺エコーの検査と細胞診検査を行っています。

一方、糖尿病は膵臓から出るインスリンというホルモンの作用不足や分泌の障害によって高血糖をきたし、様々な合併症を引き起こす病気ですが、今や国民病と言われるくらい、多くの方が罹患しておられます。過食、運動不足、肥満など生活習慣の乱れが発病の引き金となりますので、何よりも予防が大切です。一度、進行すると全身病といわれるくらいに眼、血管、心臓、神経、脳など多臓器にまたがって合併症を引き起こす病気ですので、他科の専門医の先生方との緊密な連携のもとに、患者さんの全身管理に努めています。外来及び入院の患者さんには週3回、計6回コースで開催されている糖尿病教室を積極的にご利用いただき、糖尿病と上手につきあっていくコツを是非会得していただけたらと思います。その他、糖尿病性足壊疽を予防するために足の手入れを指導するフットケア診療にも力を入れており、外来では足評価と簡単な治療も行っており、ぜひご利用ください。また、先進医療としてインスリン分泌が枯渇しているI型糖尿病患者さんのための膵島移植治療に関する相談にも応じております。「親切であたたかい医療」をモットーに診療科スタッフ一同、皆様の日々の健康管理に努めてまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

主な週間スケジュールは以下のとおりです。

新患外来、再来 ▶ 日曜を除く毎日(月曜～金曜の午前・午後、及び土曜午前)

甲状腺エコー ▶ 毎週火曜、金曜の午後2時より

フットケア外来 ▶ 月曜午後

膵島移植外来 ▶ 水曜午後

糖尿病教室 ▶ 毎週月、火、水曜日の午後2時半より
(連続2週、計6回受講して1シリーズ完了)

産婦人科について



診療部長
医師 宮本 新吾

平成21年4月より産婦人科診療部長として着任しております宮本新吾です。よろしくお願いいたします。

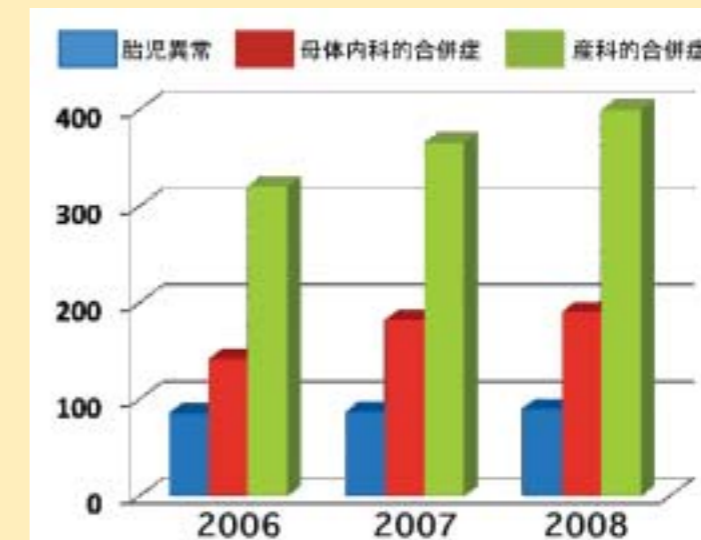
大分県出身で、学生実習で出会った子宮頸癌の患者さんから非常に感謝されたことが大きなきっかけとなって卒業後に産婦人科を選択しました。入局後は、最初に教育を受けた上司から「科学的根拠に基づく診療ができる医師」を目指すことを教え込まれ、出張病院でも、診療だけでなく臨床研究を常に意識してきました。何とか社会に貢献できることをやり遂げたいとの一心で頑張ってきた“変り種”ですが、現在その成果のひとつとしてトランスレーショナル・リサーチ(実験室の研究成果を患者治療に適応させる)をがん領域で行っています。この研究を開始した頃はひとりでしたが、今では教室員とみんなで取り組めるところまで発展してきました。今後は、現在行っている治験が進むことにより、多くのがん患者さんを救命することを目指して医局員一丸となって精進していきます。

診療に関しましては、私たちの教室では大きく分けて、周産期、生殖内分泌、婦人科腫瘍の3つの領域を担っています。周産期領域は、母体・胎児集中治療室(MFICU)および新生児集中治療室(NICU)を整備した福岡県総合周産期母子医療センターとして、厚生労働省からの指定を受けています(福岡市内では当院と九州大学の2施設が指定)。この分野は最近メディアでとりあげられる機会も多いので、産婦人科の中でもよく知られている領域だと思えますが、当院では母体や胎児・新生児異常に対して一貫した治療を行うとともに、重症妊娠中毒症、切迫早産をはじめとして、内科、外科、精神神経科など、種々の専門科の協力を得て、如何なる合併症を持つ妊婦でも妊娠中から産後まで、24時間体制で対応しています。

生殖内分泌領域は、主に不妊症、更年期障害、思春期の内分泌異常を対象とし、体外受精や腹腔鏡などの内視鏡を用いた子宮内膜症あるいは子宮・卵管・卵巣の形態学的な疾患の治療にも積極的に取り組んでいます。また、骨粗鬆症や重度の子宮内膜症に対する標的分子の探索、それに引き続く治療法の開発の準備を行っています。

婦人科腫瘍領域では、子宮癌や卵巣癌などに対しては、手術、放射線、化学療法を組み合わせた集学的治療を行い、再発卵巣癌症例に対しては上述した卵巣癌標的治療薬を用いた医師主導型治験を実施しています。また、良性疾患に対する腹腔鏡を中心とした非侵襲的治療など、高い医療技術を導入して患者さんの疾病に適した治療を行っています。婦人科も周産期領域と同様に24時間体制で急患に対応しています。

以上、福岡大学医学部産婦人科教室では診療だけでなく、臨床研究を意識して、アカデミアとして地域医療の充実とともに、新たな治療法を世界に向けて発信していくことを目指しています。今後の福岡大学医学部産婦人科教室にご期待ください。



卵巣がんに対する治験のお知らせ

当科では先行・後発薬の臨床試験に積極的に参加しています。対象は、癌の転移である「卵巣癌」の発症と生存性を高めるために行う臨床試験です。

この試験に参加できる方

- 年齢が20歳以上75歳未満の方
- 卵巣がんの自覚症状がない方
- 卵巣がんの転移が認められない方
- 少なくとも2週間前に入院が可能な方

※詳細は「卵巣がん」の臨床試験について、
福岡大学産科・婦人科にてお問い合わせください。
※参加期間 ▶ 2009年10月～2010年12月まで
※試験内容 ▶ 卵巣・腹膜/卵巣腫瘍/CT 造影
※実施施設 ▶ 大分県立総合医療センター

お問い合わせ先 ▶ 福岡大学産科・婦人科
〒816-8501 福岡県福岡市東区
〒816-8501 福岡県福岡市東区
TEL: 092-1001-1001(福岡大学総合病院)